Abbott

お客様相談窓口

TEL 0120-37-8055

アボット ジャパン株式会社
千葉県松戸市松飛台278

469493/R10 ART23040 Rev. A 03/12

取扱説明書

Abbott

記号の定義

測定器に関連する記号を以下に示します。
地域によって規制条件が異なるため、以下に示す記号の中には、お手持ちの製品に表示されないものがあります。

記号	説明
LOT	ロット番号
REF	製品番号
	注意
	添付文書を参照
	製造日
	飲用禁止
	再使用禁止
IVD	体外診断用の医療機器

記号	説明
	製品中の電池は取り外し、使用済み電池の分別収集のための地域の規則に従って廃棄すること。
	包装箱はリサイクル可能
	製造業者
	照射滅菌（穿刺針のみ）
	温度制限
	使用期限
	シリアル番号

目次

使用用途

プレシジョン エクシードは、糖尿病管理のために、自己または医療従事者が体外診断用としてのみ使用します。血糖測定の際には、指先、前腕、上腕および親指の付け根から採取した血液検体を用いて血糖値を測定します。

- 新鮮な全血検体の血糖測定
- 指先から採血した新鮮な全血検体の
  β-ケトン（β-ヒドロキシ酪酸）測定

重要：G3b血糖測定電極 スマートブルー および **β-ケトン測定電極Ⅲ**のみを使用してください。その他の電極では、正しい測定結果が得られない可能性があります。

重要：検体の種類に関する詳しい情報は、電極の添付文書を参照してください。

感染のリスクについて：複数の患者に測定器を使用する医療従事者においては、手袋を必ず着用し、各々の施設の感染性物質の取り扱い方に従ってください。

この取扱説明書の説明をお読みください。指示に従わないと、正しい測定結果が得られない可能性があります。測定器を使用する前に、測定方法の練習を行ってください。血糖値および血中 β－ケトン値の測定を行う際には、医師の指示に従ってください。

お子さまの近くで使用する際には、注意が必要です。のどに詰まる危険性のある小さな部品が含まれています。

血糖測定および β-ケトン測定のしくみ

測定器に電極を差し込むと、表示画面に「滴下マーク」が表示されます。血液検体またはコントロール溶液を電極に滴下すると、グルコースまたは β-ケトンが電極上の化学物質と反応します。測定器はこの反応によって生じた微弱な電流を測定します。表示画面に測定結果が表示されます。

重要：測定器の挿入口には、ほこり、汚れ、血液、コントロール溶液、水あるいはその他の物質が付かないようにしてください。

プレシジョン エクシードの内容

プレシジョン エクシードに入っているもの

- 本測定器
- 添付文書
- 取扱説明書（本書）
- 携帯ポーチ
- 保証書

その他測定に必要なもの

- 専用の血糖測定電極および添付文書
- 専用の血中 β-ケトン測定電極および添付文書
- 穿刺器具および添付文書
- 未使用の滅菌穿刺針および添付文書
- 専用のコントロール溶液および説明書

測定器の設定

設定モードへのアクセス

測定器の電源が入っていない状態（電極が差し込まれていない状態）から始めます。

コマンド
- Ⓘ（モードボタン）を押すと各設定項目へ移動
- ▶（進むボタン）を押すと進む
- ◀（戻るボタン）を押すと戻る
- ☀（バックライトボタン）を押すとバックライトがオンまたはオフ

√と♫が表示されるまで、Ⓘを押し続けます。この表示は、ブザー音がオンであることを示します。

Xと♫は、ブザー音がオフであることを示します。

ブザー音

◀または▶を押して、ブザー音の設定を変更します。Ⓘを押して、ブザー音の設定を保存して、時刻の設定に進みます。

ブザー音が鳴るとき：
- カウントダウンが始まったとき
- カウントダウンが終わったとき
- Ⓘを2秒以上押し続けたとき

時刻

「時」の表示が点滅します。◀または▶を押して設定したい「時」を表示させ、Ⓘを押して「時」を保存し、次に「分」の設定をします。
「分」の表示が点滅します。◀または▶を押して設定したい「分」を表示させ、Ⓘを押して「分」を保存し、次に「日付」の設定に進みます。

日付

表示	説明
20 10 年	「年」の表示が点滅します。◀または▶押して設定したい「年」を表示させ、Ⓘを押して「年」を保存し、次に「月」の設定に進みます。
10- 1 月–日	「月」の表示が点滅します。◀または▶を押して設定したい「月」を表示させ、Ⓘを押して「月」を保存し、次に「日」の設定に進みます。 「日」の表示が点滅します。◀または▶を押して設定したい「日」を表示させ、Ⓘを押して「日」を保存し、次に時刻の表示形式の設定に進みます。

時刻の表示形式

24時間形式

注：12時間形式を使用している場合は、AMまたはPMを表示します。
「時刻の表示形式」の表示が点滅します。◀または▶を押して「時刻の表示形式」を変更し、Ⓘを押して「時刻の表示形式」を保存し、次に「日付の表示形式」の設定に進みます。

日付の表示形式

10- 15
月–日

15. 10
日. 月

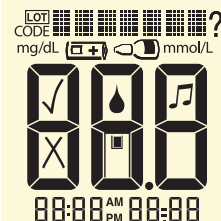
「日付の表示形式」の表示が点滅します。◀または▶を押して「日付の表示形式」を変更し、Ⓘを押して「日付の表示形式」を保存し、次に「測定単位」を表示させます。

重要：測定器を初めてお使いになるときには、正しい時刻と日付に設定されていることを確認してください。これにより測定を行った日時が記録され、医師が糖尿病治療に関して適切な指導をするのに役立ちます。**平均血糖値を確認するために時刻と日付を設定し確認してください。**

測定単位

mg/dL mmol/L	あらかじめ設定されている血糖測定単位が表示されます。この設定は変更できません。mmol/Lは血中 β-ケトン測定結果を示す単位です。詳細な情報については、お客様相談窓口までご連絡ください。 ⓘを押してブザー音の設定に戻るか、ⓘを押し続けて測定器の電源を切ります。

血糖測定

測定の際の重要事項

測定器に電源が入ると、この表示チェック画面が表示されます。電源が入るたびに、測定器の画面がこの図と一致していることを確認してください。

測定器の画面がこの図と一致しない場合には、測定器を使用しないでください。

一致しない場合は、正しい測定結果が表示されない可能性があります。この場合、弊社お客様相談窓口にご連絡ください。

例：使用期限が2012年3月31日の場合

- 電極の使用環境条件内で測定器を使用してください。
- 電極はホイル包装開封後、直ちに使用してください。
- 電極は1回限り使用し、使用後は廃棄してください。

使用期限の過ぎた電極は**使用しないでください**。正しい測定結果が得られない可能性があります。年と月のみが印字されている場合は、その月の末日が使用期限です。
電極が、ぬれていたり、曲がっていたり、傷ついていたり、損傷を受けている場合は**使用しないでください**。
ホイル包装に穴があいていたり、破れているときは、**使用しないでください**。

***注：**電極の使用環境条件および使用上の注意の詳細な情報は、ご使用の電極の添付文書を参照してください。*

測定の際の注意

1. 指先から採血する場合は、穿刺前に、必ず流水でよく手を洗ってください。
2. 果物等の糖分を含む食品などに触れた後、そのまま指先から採血すると指先に付着した糖分が血液と混じり、血糖値が偽高値となるおそれがあります。［アルコール綿による消毒のみでは糖分の除去が不十分との報告があります。］
3. 以下のような末梢血流が減少した患者の指先から採血した場合は、血糖値が偽低値を示すことがあるため、静脈血等他の部位から採血した血液を用いて測定してください。
   –脱水状態　–ショック状態　–末梢循環障害

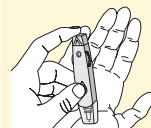
採血部位

指先

重要：正確な測定結果を得るために、石けんと温水で手と採血部位を洗い、完全に乾かしてください。採血部位を温めるために、蒸しタオルをあてたり、数秒間よくこすってください。

***注：**骨にあたる部分、毛深い部位を避けて、採血します。指先以外の採血部位ではあざができることがありますが、すぐに消えます。あざができる場合には、他の採血部位を選んでください。*

指先からの採血と、指先以外の採血部位からの採血とでは、穿刺の深さが異なります。（採血部位によって穿刺器具を調整してください。詳細は、穿刺器具の添付文書を参照してください。）

指先以外の採血部位

親指の付け根

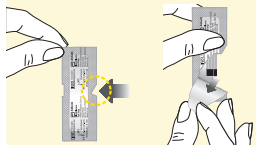
上腕

前腕

指先以外の採血部位（前腕、上腕および親指の付け根）からの採血には注意が必要です。これらの部位で採血する際には、医師にご相談ください。

- 血糖値が急激に変化するとき（たとえば、食後、インスリン投与後、運動中または運動後）は、指先による測定結果と指先以外の採血部位による測定結果が異なる場合があります
- 指先以外の採血部位による測定は、食後、インスリン投与後、もしくは運動後、2時間以上経過してから、またはその前に実施してください

次の場合は、これらの採血部位による測定は**避けてください**
- 血糖値が低い、または急激に変動していると感じられる場合
- 無自覚性低血糖と診断されている場合
- 指先以外の採血部位による測定結果が、自覚症状と一致しない場合
- 食後、インスリン投与後、または運動後、2時間以内の場合

血糖測定

電極のホイル包装を切れ目から破って開封し、電極を取り出します。

電極を差し込む
差込部分（黒の3本線）を表に向け、測定器に電極を止まるところまで差し込みます。これで、測定器の電源が入ります。

***注：**3分間操作をしないと、測定器の電源が切れます。測定器から電極を外し、再度未使用の電極を差し込んで、測定器を再起動します。*

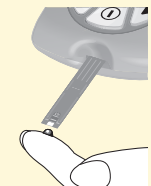
測定器に電源が入るたびに、この表示画面が表示されます。

表示チェック画面が、図と一致しない場合は、測定器を使用しないでください。この場合、弊社お客様相談窓口までご連絡ください。

詳細は、「血糖測定」の章を参照してください。

次に、（設定されているときは）時刻と日付が表示されます。

LOT 45001および、血液の「滴下マーク」と が表示されたら、電極に血液を滴下することができます。

血液の採取
採血部位を選択します。血液を採取するには、穿刺器具を使用してください。（詳細は、穿刺器具の添付文書を参照してください。）

電極に血液を滴下
電極の先端にある白いターゲットエリアに血液を滴下してください。血液が電極に吸収されます。血液を滴下する前に測定器の電源が切れた場合には、電極を測定器から外して再度差し込んでください。

重要：カウントダウンが始まらない場合は、電極に十分な量の血液が滴下されていない可能性があります。ご使用の電極の添付文書を参照して再度血液を滴下してください。それでもカウントダウンが始まらないときは、使用済みの電極を外し、適切に廃棄してください。その後、新しい電極で再度測定を行ってください。

（ブザー音の設定がオンのときは）測定器のブザー音が鳴り、表示画面にステータスバーが表示されるまで、白いターゲットエリアに血液を触れさせたまま動かさないでください。この表示は、電極に十分量の血液が吸収されたことを示します。

血糖値を測定している間は、カウントダウンが表示画面に表示されます。

注：カウントダウン中は、電極を触ったり、外したりしないでください。

測定結果の表示

測定結果が表示画面に表示されると、（ブザー音の設定がオンのときは）測定器のブザー音が鳴ります。これで測定は完了です（左の例を参照）。測定結果は、測定器に保存されます。記録ノートにも測定結果をメモしておくと良いでしょう。

測定終了

使用済みの電極を外すときは、開封済みのホイル包装を使用してください。電極を外すと、電源が切れます。使用した電極は適切に廃棄してください。

注：①を2秒以上押し続けると測定器の電源が切れます。①を押さなくても60秒後に自動的に電源は切れます。

血糖測定結果の判定

低値または高値の血糖測定結果

測定器は、血糖値をmg/dLで表示します。測定単位はあらかじめ設定されています。この設定を変更することはできません。

重要： 測定器には、20～500 mg/dLの測定結果が表示されます。低値または高値の血糖測定結果は、深刻な病状を示している可能性があります。

一般：

測定結果	状　況	対処法
50 mg/dL未満	低値（低血糖）	低血糖の自覚症状がなくても、新しい電極で再度測定してください。
300 mg/dLを超える	高値（高血糖）	高血糖の自覚症状がなくても、新しい電極で再度測定してください。

測定器：

表示画面	状　況	対処法
LO 血糖測定値が20 mg/dL未満のときに表示されます	重度の低血糖 または 電極に問題がある可能性があります	新しい電極で再度測定してください。それでもLOが表示されたときは、**直ちに**医師に連絡してください。

測定器：

表示画面	状　況	対処法
KETONES? 300 mg/dL以上の血糖測定値と共に表示されます	血糖測定値が高い	糖尿病治療プログラムの一環として、ケトンを測定している場合は、血中β–ケトンを測定してください。
HI 測定結果が500 mg/dLを超えるときに表示されます	重度の高血糖 または 電極に問題がある可能性があります	新しい電極で再度測定してください。それでもHIが表示されたときは、**直ちに**医師に連絡してください。 糖尿病治療プログラムの一環として、ケトンを測定している場合は、血中β–ケトンを測定してください。

注：エラーメッセージE-3またはE-4が表示される場合は、本書のエラーメッセージの章を参照してください。

重要：本書に記載されている指示に従っている場合で、測定結果が自覚症状と**一致しない**ときには、医師に連絡してください。

血中β-ケトン測定

測定の際の重要事項

例：使用期限が2012年3月31日の場合

- 電極の使用環境条件内で測定器を使用してください。
- 電極はホイル包装開封後、直ちに使用してください。
- 電極は1回限り使用し、使用後は廃棄してください。

使用期限の過ぎた電極は**使用しないでください。**正しい測定結果が得られない可能性があります。年と月のみが印字されている場合は、その月の末日が使用期限です。

電極に尿検体を**つけないでください。**

電極が、ぬれていたり、曲がっていたり、傷ついていたり、損傷を受けている場合は**使用しないでください。**

ホイル包装に穴があいていたり、破れているときは、**使用しないでください。**

注：電極の使用環境条件および使用上の注意の詳細は、ご使用の電極の添付文書を参照してください。

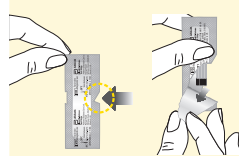
次の場合にケトン体を測定してください。
- 他の病気にかかっているとき
- 血糖値が300 mg/dL以上のとき
- 血糖測定値が異常な値を示したとき
- ご自身または医師が必要と判断したとき

採血部位

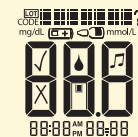
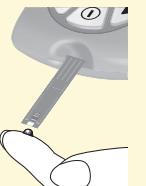
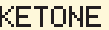
重要：正確な測定結果を得るために、石けんと温水で手を洗い、完全に乾かしてください。採血部位を温めるために、蒸しタオルをあてたり、数秒間よくこすってください。

指先

血中 β-ケトン測定には、指先から採取した血液のみ使用してください。
詳細については、使用する電極の添付文書を参照してください。

血中 β-ケトン測定

電極のホイル包装を切れ目から破って開封し、電極を取り出します。

電極を差し込む
差込部分（黒の3本線）を表に向け、測定器に電極が止まるところまで差し込みます。これで、測定器の電源が入ります。

***注：**3分間操作をしないと、測定器の電源が切れます。測定器から電極を外し、再度未使用の電極を差し込んで、測定器を再起動します。*

測定器に電源が入るたびに、この表示画面が表示されます。

表示チェック画面が、図と一致しない場合は、測定器を使用しないでください。この場合、弊社お客様相談窓口までご連絡ください。

詳細は、「血糖測定」の章を参照してください。

10:30 AM 12-5

次に、（設定されているときは）時刻と日付が表示されます。

CODE 75001

CODE 75001と血液の「滴下マーク」が表示されます。

KETONE

KETONEと血液の「滴下マーク」が表示されたら、電極に血液を滴下することができます。

血液の採取
指先から採血します。血液を採取するには、穿刺器具を使用してください。（詳細は、穿刺器具の添付文書を参照してください。）

電極に血液を滴下
電極の先端にある白いターゲットエリアに血液を滴下してください。血液が電極に吸収されます。

重要：カウントダウンが始まらない場合は、電極に十分な量の血液が滴下されていない可能性があります。ご使用の電極の添付文書を参照して再度血液を滴下してください。それでもカウントダウンが始まらないときは、使用済みの電極を外し、適切に廃棄してください。その後、新しい電極で再度測定を行ってください。

（ブザー音の設定がオンのときは）測定器のブザー音が鳴り、表示画面にステータスバーが表示されるまで、白いターゲットエリアに血液を触れさせたまま動かさないでください。この表示は、電極に十分量の血液が吸収されたことを示しています。

KETONE

:10

β-ケトン値を測定している間は、カウントダウンが表示画面に表示されます。

***注：**カウントダウン中は電極を**触ったり、外したりしないでください**。*

KETONE
mmol/L
0.1
10:06PM 10-25

測定結果の表示
測定結果とKETONEが表示画面に表示されると、（ブザー音の設定がオンのときは）測定器のブザー音が鳴ります。これで測定は完了です（左の例を参照）。測定結果は、測定器に保存されます。記録ノートにも測定結果をメモしておくと良いでしょう。

測定終了
使用済みの電極を外すときは、開封済みのホイル包装を使用してください。電極を外すと、電源が切れます。使用した電極は適切に廃棄してください。

***注：**①を2秒以上押し続けると測定器の電源が切れます。①を押さなくても60秒後に自動的に電源は切れます。*

血中 β-ケトン測定結果の判定

高値の血中 β-ケトン測定結果

測定器は、β-ケトン値をmmol/Lで表示します。測定単位はあらかじめ設定されています。この設定を変更することはできません。

重要：測定器には、0.0～8.0 mmol/Lの測定結果が表示されます。糖尿病治療プログラムを変更する場合は、医師による指示に従ってください。

血中 β-ケトン値は、通常0.6 mmol/L未満です[2]。病気のとき、空腹時、激しい運動の後、血糖値がコントロールされていない場合には、血中 β-ケトン値が高くなる可能性があります[1-3]。

次の場合は、新しい電極で再度血中 β-ケトン測定を行ってください。

- "HI"が表示画面に表示されたとき
- 血中 β-ケトン値が異常に高いとき
- 測定結果に疑問があるとき
- 血中 β-ケトン値が0.0 mmol/L にもかかわらず、血糖測定値が300 mg/dL以上のとき

測定器：

表示画面	状　況	対処法
血中 β-ケトン値が 0.6～1.5 mmol/L であり、血糖値が 300 mg/dL以上	血中 β-ケトン値が高い 医療措置を必要とする可能性があります	医師に連絡し、指示に従ってください。
上記の状況で、「対処法」に従った後も、血中 β-ケトン値が0.6～1.5 mmol/Lの状態が続く、または 1.5 mmol/Lを超える	糖尿病性ケトアシドーシス（DKA）[2-6] を発症している恐れがあります	**直ちに**医師に連絡してください。
HI 測定結果が8.0 mmol/L を超えるとき表示されます	血中 β-ケトン値が とても高い または 電極に問題がある可能性があります	新しい電極で再度測定してください。それでも"HI"が表示されたときは、**直ちに**医師に連絡してください。

グルコース/β-ケトン混合コントロール溶液

重要：新しいコントロール溶液のボトルを開ける際に、にじんだり消えたりしないペンで90日後の日付をボトルに記入してください。この日付を過ぎた溶液は廃棄してください。

コントロール溶液は、血糖測定電極とβ-ケトン測定電極のいずれにも使用できます。

次の場合にコントロール溶液を使用します。

- 血液を使用せずに測定の練習を行うとき
- 測定器および電極が正常に機能していることを確認するとき
- 血糖または血中β-ケトンの測定結果に疑問があるとき

コントロール溶液をお求めの際には、弊社お客様相談窓口までご連絡ください。

コントロール測定の重要事項

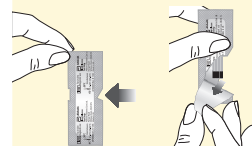
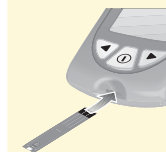
- MediSense グルコース/β-ケトン混合コントロール溶液を使用してください
- 使用後は直ちにボトルのキャップをしっかりと閉めてください

使用期限の過ぎたコントロール溶液は**使用しないでください。**
コントロール溶液に水や他の液体を**加えないでください。**
コントロール溶液を**飲んだり、注射したりしないでください。**
コントロール溶液を目に**滴下しないでください。**

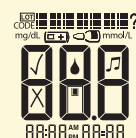
重要：コントロール溶液の測定結果が、電極の添付文書に記載されている「専用コントロール溶液による期待値測定範囲」内であることを確認してください。電極の包装に表示されているロット番号と添付文書に表示されているロット番号が一致していることを確認してください。

- コントロール溶液の測定結果が範囲外の場合は、再度測定してください。
- 再測定後も、測定結果が範囲外の場合には、測定器の使用をやめ、弊社お客様相談窓口までご連絡ください。

重要：コントロール測定結果は、ご自身の血糖値または血中β-ケトン値を示すものではありません。

コントロール測定

電極のホイル包装を切れ目から破って開封し、電極を取り出します。

電極を差し込む

差込部分（黒の3本線）を表に向け、測定器に電極を止まるところまで差し込みます。これで、測定器の電源が入ります。

注：*3分間操作をしないと、測定器の電源が切れます。測定器から電極を外し、再度未使用の電極を差し込んで、測定器を再起動します。*

測定器に電源が入るたびに、この表示画面が表示されます。

表示チェック画面が、図と一致しない場合は、測定器を使用しないでください。この場合、弊社お客様相談窓口までご連絡ください。

詳細は、「血糖測定」の章を参照してください。

次に、（設定されているときは）時刻と日付が表示されます。

LOT 45001および、「滴下マーク」と が表示されます。

注：*β-ケトンのコントロール測定の場合、CODE 75001と の後にKETONEと が表示されます。*

を押して、コントロール測定として記録します。

が表示されたら、電極にコントロール溶液を滴下することができます。

重要：コントロール測定として記録しないと、測定結果は、血糖測定値または血中β-ケトン測定値として保存されます。これは、ご自身の平均血糖値に影響します。

電極にコントロール溶液を滴下

コントロール溶液のボトルを3～4回転倒混和します。電極の先端にある白いターゲットエリア（左図参照）にコントロール溶液を1滴、滴下してください。コントロール溶液が電極に吸収されます。

（ブザー音の設定がオンのときは）測定器のブザー音が鳴り、表示画面にステータスバーが表示されるまで、白いターゲットエリアにコントロール溶液を触れさせたまま動かさないでください。この表示は、電極に十分量のコントロール溶液が吸収されたことを示しています。

測定している間は、カウントダウンが表示画面に表示されます。

注：*カウントダウン中は電極を****触ったり、外したりしないでください****。*

カウントダウンが始まらないときは、使用済みの電極を外し、廃棄して、電源を切ります。その後、新しい電極で再度測定を行ってください。

ART23040_Rev-A-Man.indd 23-24 4/16/12 10:12 AM

測定結果の表示
測定結果が表示画面に表示されると、（ブザー音の設定がオンのときは）測定器のブザー音が鳴ります。これで測定は完了です（左の例を参照）。測定結果は、コントロール溶液の測定結果として測定器に保存されます。記録ノートにも測定結果をメモしておくと良いでしょう。

注： *β-ケトンのコントロール測定の場合、測定結果と共に KETONE が表示されます。*

コントロール溶液の測定結果を、ご使用の血糖測定電極または血中β-ケトン測定電極の添付文書に記載されている「専用コントロール溶液による期待値測定範囲」と比較して、測定結果が、範囲内であることを確認してください。

測定結果が範囲外の原因：
- 測定器および電極が正常に機能していない可能性があります

新しい電極を用い、コントロール溶液の測定手順に従って、再度測定を行ってください。それでも測定結果が範囲外の場合には、弊社お客様相談窓口までご連絡ください。

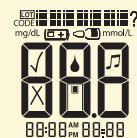
測定終了
使用済みの電極を外すときは、開封済みのホイル包装を使用してください。電極を外すと、電源が切れます。使用した電極は適切に廃棄してください。

注： *ⓘを2秒以上押し続けると測定器の電源が切れます。ⓘを押さなくても60秒後に自動的に電源は切れます。*

測定結果の利用法

測定器には最大450件までの測定結果を保存できます。これには、コントロール溶液の測定結果、血糖測定結果、血中β-ケトン測定結果、およびその他の情報が含まれます。最新の情報から表示します。

保存されている測定結果の表示方法

測定器の電源が入っていない状態から始めます（電極も差し込まれていない状態）。

ⓘを押して、測定器の電源を入れます。

測定器に電源が入るたびに、この表示画面が表示されます。

表示チェック画面が、図と一致しない場合は、測定器を使用しないでください。この場合、弊社お客様相談窓口までご連絡ください。

詳細は、「血糖測定」の章を参照してください。

次に、最新の測定結果が、（設定されている場合には）時刻と日付と共に表示されます。次の記号は、測定結果の種類を示しています。

MEM = 血糖測定結果

KET MEM = 血中 β-ケトン測定結果

MEM = 血糖コントロール測定の結果

KET MEM = β-ケトンコントロール測定の結果

◀ を押すと1つ前の測定結果を表示します。表示したい測定結果になるまでこの操作を行います。

注：表示を終了するときは、ⓘを押し続けてください。

1つ前の測定結果がないときに、この表示になります。

▶ を押して、一度表示した測定結果に戻ります。表示したい測定結果になるまでこの操作を行います。

注：表示を終了するときは、ⓘを押し続けてください。

平均血糖値の表示方法

重要：

- 平均血糖値を表示するために、測定の前に日付と時刻を設定してください。
- 平均血糖値には、血糖コントロール測定結果、β-ケトンコントロール測定結果、血中 β-ケトン測定結果、時刻と日付を設定していない測定結果は含まれません。
- コントロール測定として記録されていないコントロール測定結果により、正確な平均血糖値が得られない可能性があります。
- 表示する平均血糖値がないときは、— — — が表示画面に表示されます。
- LO が表示された結果は、20 mg/dL として平均血糖値に含まれます。
- HI が表示された結果は、500 mg/dL として平均血糖値に含まれます。

保存されている測定結果を表示している状態で、Ⓘを押します。7日間の平均血糖値が表示できます。

***注：**表示画面の"n"は7日間、14日間、30日間の平均血糖値に含まれる測定回数を示します。*

◀を押すと14日間の平均血糖値が表示できます。

◀を押すと30日間の平均血糖値が表示できます。

◀を押すと7日間の平均血糖値に戻ります。

Ⓘを押すと測定結果の表示に戻ります。

Ⓘを押し続けると測定器の電源が切れます。Ⓘを押さなくても30秒後に自動的に電源は切れます。

測定結果のコンピュータへの転送

測定結果のコンピュータへの転送には、互換性のあるデータ管理システム（医家向け）が必要です。詳細については、弊社お客様相談窓口までご連絡ください。

エラーメッセージ

メッセージ	状　況	対処法
E-1	周囲の温度が高すぎたり、低すぎるために正常に機能していません	1. 測定器と電極を電極の使用環境条件内の温度の場所に移してください。（適切な温度については、電極の添付文書を参照してください。） 2. 移した場所では測定器と電極が周辺の温度になじむまでに一定の時間を要する場合があります。 3. 新しい電極で再度測定を行ってください。 4. 測定器を操作するときの環境温度は10～50℃です。測定を行うときの適切な使用環境条件については電極の添付文書を参照してください。 5. 再び同じエラーメッセージが表示されたときは弊社お客様相談窓口までご連絡ください。
E-2	測定器のエラー	1. 電源を切ります。 2. 再度測定を行ってください。 3. 再び同じエラーメッセージが表示されたときは弊社お客様相談窓口までご連絡ください。
E-3	血糖測定電極またはβ-ケトン測定電極に問題がある可能性があります または、 測定しようとしている血液はプレシジョンエクシードでは測定できない可能性があります	1. 測定方法を確認してください。 2. 新しい電極で再度測定を行ってください。 3. 再び同じエラーメッセージが表示されたときは**直ちに**医師に連絡してください。医療従事者の方は、他の測定方法で当該患者の血液を測定してください。

メッセージ	状　況	対処法
E-4	血糖測定電極またはβ-ケトン測定電極に問題がある可能性があります または、 血糖測定値が著しく高く、測定範囲を超えている可能性があります	1. 新しい電極で再度測定を行ってください。 2. 再び同じエラーメッセージが表示されたときは**直ちに**医師に連絡してください。
E-5	電極に血液を滴下するのが早すぎます	1. 測定方法を確認してください。 2. 新しい電極で再度測定を行ってください。 3. 再び同じエラーメッセージが表示されたときは弊社お客様相談窓口までご連絡ください。
E-6	測定器のエラー	1. 専用の電極を使用していることを確認してください。（正しい電極であることを確認するには、ご使用の電極の添付文書を参照してください。） 2. 専用の電極を使用して、再度測定を行ってください。 3. 再び同じエラーメッセージが表示されたときは弊社お客様相談窓口までご連絡ください。
E-7	校正は必要ありません または、 電極が破損していたり、使用済みであるか、または測定器が電極を認識していません	1. 専用の電極を使用していることを確認してください。（正しい電極であることを確認するには、ご使用の電極の添付文書を参照してください。） 2. 専用の電極を使用して、再度測定を行ってください。 3. 再び同じエラーメッセージが表示されたときは弊社お客様相談窓口までご連絡ください。

メッセージ	状　況	対処法
E-8 または E-9	測定器のエラー	1. 測定器の電源を切ります。 2. 再度測定を行ってください。 3. 再び同じエラーメッセージが表示されたときは弊社お客様相談窓口までご連絡ください。

トラブルシューティング

	状　況	対処法
電極を差し込んだ後、測定器が測定モードにならない。	電極が測定器に正しくまたは完全に差し込まれていません	1. 差込部分（黒の3本線）を表に向け、測定器に電極を止まるところまで差し込んでください。これで、測定器の電源が入ります。 2. それでも測定器が測定モードにならないときは弊社お客様相談窓口までご連絡ください。
	電池がセットされていません 電池が正しくセットされていません	1. 電池の"+"側を表に向けてセットしてください。
	電池寿命がなくなりました	1. 電池を交換してください。必要に応じて、日付と時刻を再設定してください。

	状　況	対処法
血液検体を滴下しても測定が開始されない。	血液検体が少なすぎます	1. 再度血液を滴下する方法については、電極の添付文書を参照してください。 2. 再滴下してもカウントダウンが始まらないときは、使用済みの電極を外し、適切に廃棄してください。 3. 新しい電極で再度測定を行ってください。 4. それでも測定が開始されないときは、弊社お客様相談窓口までご連絡ください。
	測定器の電源が切れた後に検体が滴下されました	1. 使用済みの電極を外し、適切に廃棄してください。 2. 測定方法を確認してください。 3. 新しい電極で再度測定を行ってください。 4. それでも測定が開始されないときは、弊社お客様相談窓口までご連絡ください。
	測定器または電極に問題があります	1. 使用済みの電極を外し、適切に廃棄してください。 2. 新しい電極で再度測定を行ってください。 3. それでも測定が開始されないときは、弊社お客様相談窓口までご連絡ください。

お手入れ

電池の交換

測定器には、CR2032リチウム電池（コイン型）1個がセットされています。約1,000回分の測定ができます。

- 電池寿命が短くなったときに表示画面に表示されます。
- このマークが表示されると、バックライトが点灯しません。

が表示されても、測定器を使用することができ、測定結果は正確です。バックライトは点灯しません。直ちに電池を交換してください。

のみが表示されると、測定器は使用できません。自動的に測定器の電源が切れます。直ちに電池を交換してください。

1. 電池カバーをゆっくり押し上げます。

2. プラスティックのつまみがある場合、つまみを手前に引き、電池を外します。
   プラスティックのつまみがない場合、電池を上に押し上げ、傾けてから外します。

3. 新しいCR 2032リチウム電池（コイン型）の"+"側を表に向けてセットします。

4. カチッという音が聞こえるまで電池カバーをスライドさせます。

   注：使用済み電池は適切に廃棄してください。

5. ⓘ を押し続けて測定器の電源を入れます。測定器の電源が入らない場合は、電池が適切にセットされているか確認してください。

   測定器の電源を入れると、時刻と日付の再設定画面になる場合があります。（本書の「測定器の設定」を参照してください。）

   注：時刻と日付の設定が削除されても、測定結果は削除されません。

測定器のクリーニング

測定器の挿入口は、ほこり、汚れ、血液、コントロール溶液、液体を付けないでください。
測定器の表面が汚れたときは、湿った布と刺激の弱い石けんを使って拭いてください。

医療従事者の方へ：

使用できる洗浄液：

- 70％アルコール
- 10倍に薄めたアンモニア水
- 10倍に薄めた家庭用漂白剤

感染を防ぐため、複数の患者で同一の測定器を使用する場合には、10倍に薄めた漂白剤で掃除してください。

重要：

測定器の挿入口は**掃除しないでください。**
測定器の挿入口やボタンは**ぬらさないでください。**
測定器を水や他の溶液に**浸けないでください。**

測定器の保管

測定器は携帯ポーチに入れて保管してください。

仕様

サイズ	
長さ	7.47 cm
幅	上部5.33 cm
	下部4.32 cm
厚さ	1.63 cm
重さ	40～46 g
電源	CR2032 リチウム電池（コイン型）1個
電池寿命	約1,000回測定
メモリー	450 回分 コントロール測定結果、血糖測定結果、血中 β-ケトン測定結果およびその他の情報が保存されます。
保管温度	
測定器	-25～55 ℃
電極	電極の添付文書を参照してください。

コントロール溶液	コントロール溶液の説明書を参照してください。
測定方法	酵素電極法
測定範囲	
血糖	20～500 mg/dL
血中 β-ケトン	0.3～8.0 mmol/L（β-ヒドロキシ酪酸濃度）
専用コントロール溶液による期待値測定範囲	
血糖	専用の血糖測定電極の添付文書を参照してください。
血中 β-ケトン	専用の血中 β-ケトン測定電極の添付文書を参照してください。
機能	
血糖測定	
血中 β-ケトン測定	
メモリー	450回分
平均血糖値の算出	7日間、14日間、30日間の平均
コントロール溶液としての記録および測定	
ブザー音	**オン：**カウントダウンの開始時、終了時。

バックライト	オン：カウントダウンの間は点灯し、測定結果の表示から30秒後に消えます。測定結果をコンピュータに転送している間は点灯します。
データポート	有
操作する場合の環境	
測定器の温度	10～50℃
測定時の温度	使用する電極の使用環境条件と同じです。
	電極の添付文書を参照してください。
測定器の相対湿度	10～90 %（結露のない状態）
測定時の相対湿度	10～90 %（結露のない状態）
測定時の標高	臨床試験により、標高2,195 メートルまでは測定結果に影響がないことが報告されています。

参考文献

1. Schade DS, Eaton RP. Metabolic and clinical significance of ketosis. Special Topics in Endocrinology and Metabolism 1982; 4:1–27.
2. Wiggam MI, O'Kane MJ, Harper R, Atkinson AB, Hadden DR, Trimble ER, Bell PM. Treatment of diabetic ketoacidosis using normalization of blood 3-hydroxybutyrate concentration as the endpoint of emergency management. Diabetes Care 1997; 20:1347–1352.
3. Harano Y, Kosugi K, Hyosu T, Suzuki M, Hidaka H, Kashiwagi A, Uno S, Shigeta Y. Ketone bodies as markers for Type 1 (insulin-dependent) diabetes and their value in the monitoring of diabetes control. Diabetologia 1984; 26:343-348.
4. Ubukata E. Diurnal variation of blood ketone bodies in insulin-dependent diabetes mellitus and non-insulin-dependent diabetes mellitus patients: The relationship to serum C-peptide immunoreactivity and free insulin. Ann Nutr Metab 1990; 34:333–342.
5. Luzi L, Barrett EJ, Groop LC, Ferrannini E, DeFronzo RA. Metabolic effects of low-dose insulin therapy on glucose metabolism in diabetic ketoacidosis. Diabetes 1988; 37:1470–1477.
6. Hale PJ, Crase J, Nattrass M. Metabolic effects of bicarbonate in the treatment of diabetic ketoacidosis. Br Med J 1984; 289; 1035–1038.